

第31回全国健康福祉祭とやま大会 ねんりんピック富山2018

レポート

今大会は富山県内15市町村を会場に行われた。全国から約1万人の選手・役員が参加し、総合関連イベントの参加者を含めると延べ55万1千人が訪れた。過去最多の27種目が行われたスポーツ・文化交流大会には宮城県から18種目19チームが参加。開会式や閉会式、宮城県の選手の活躍を紹介する。



秋晴れの中行われた総合開会式

力と技発揮し大活躍

大会初日は秋晴れの中、富山県総合運動公園陸上競技場で総合開会式が行われました。開会式を前に先導役の富山県立富山いずみ高の女子生徒と、富山市立熊野小6年生の「富山きとさと夢KIDS」が宮城県選手団の激励に訪れました。

応援メッセージを記したカードや宮城県の観光PRキャラクター「むすび丸」を描いた手作りの横断幕のプレゼントが贈られ、選手団は拍手。全国から集まった約1万人の選手は観客が見守る中、元気に進みました。

開会式のメインアトラクションでは、子どもから高齢者まで総勢



▲激励に訪れた「富山きとさと夢KIDS」



▶卓球
ブロック優勝した



▲2戦2勝と快勝したラグビーフットボール



▶閉会式の様子

団長インタビュー



宮城県選手団団長
鈴木隆一さん
(県社会福祉協議会会長)

人と人のつながりが大切

今年の開催地は富山県でした。まずは東北新幹線で大宮駅に向かい、そこで北陸新幹線に乗り換えて黒部宇奈月温泉駅で降りました。宿泊先は観光名所として知られる黒部峡谷にほど近く、赤い橋を走る「トロッコ電車」も見える最高のロケーションでした。

翌朝には黒部市から富山市へ向かいました。選手たちは前日の長旅の疲れも見せず、元気に開会式に参加。地元の人々が工夫を凝らした開会セレモニーで、メインステージ以外では富山県立八尾高の郷土芸能部による民俗芸能の披露、富山名物がそろった出店などもありました。

が運んだように思います。仲間を励ましたり指示したりする声ははつらつと大きく、走りも速くて、相当なトレーニングを積んでいると思わせるプレーでした。仲間同士はやはり同じ目的で活動しているため話も弾むし、競技を通じて県外の人とも交流の輪が広がります。スポーツを通じてできる、人と人のつながりの大切さを感じました。

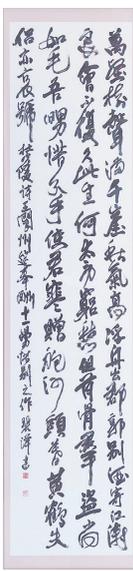
交流の輪広げるスポーツ

スポーツ・交流大会ではサッカーの応援に行きました。宮城県のチームは圧倒的な強さで、ほぼ相手チームの陣中で試合

水泳の個人種目では利府町の守屋徳衛さん(63)が背泳ぎで銀メダル、同じく富谷市の大谷澄夫さん(70)がバタフライで銅メダルに輝くなど、力と技を十分に発揮し、選手同士の交流も図られました。

富山県民会館内の美術館で行われた「美術展」に、宮城県からは10作品を出展。書の部で仙台市の久保内碧洋さん(79)が一般財団法人長寿社会開発センター理事長賞、多賀城市の鈴木朝夫さん(82)

が銀賞を受賞しました。最終日の6日に富山市のオーバード・ホールで総合閉会式が行われ、次回の開催地となる和歌山県に富山県知事から大会旗が引き継がれました。フィナーレでは富山県出身の音楽家や地域の合唱団による華やかな「富山の美しい歌」が披露され、感動の中で閉幕しました。(A・E)



美術展「書の部」で一般財団法人長寿社会開発センター理事長賞を受賞した作品